

平成28年度 学校経営計画書及び自己評価計画書

石川県立羽咋工業高等学校

学校長 塩田 憲司

1 教育目標（目指すべき人間像）

- (1) ふるさとに誇りと愛着を持ち、広い視野に立って（地域）社会に貢献できる人間を育成する。 【ふるさと創生】
- (2) 確かな学力を身に付け、個性や創造性に富む人間を育成する。 【確かな学力】

※確かな学力とは：知識や技能はもちろんのこと、これに加えて、学ぶ意欲や自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力等までも含めたもの。

- (3) モラルを重んじ、各自が責任感を持ち、他者を思いやる心豊かな人間を育成する。 【豊かな人間性】
- (4) 健康や体力の増進に努め、逞ましさと活力を持って行動する人間を育成する。 【健康・体力】

「生きる力」とは：変化の激しいこれからの子供たちに身に付けさせたい【確かな学力】【豊かな人間性】【健康・体力】の3つの要素を総合した力

2 中・長期的目標（経営方針）

(1) 学校の現状

- ① **求められる人材への対応**：能登地区唯一の工業科単独高校として、本県基幹産業を担う人材の育成を使命とし、ものづくりを中心とした専門教育を行っており、就職希望者の殆どは専門性を生かした仕事に就いている。変化の激しい現在の社会・経済状況にあって、求人状況の変化に翻弄されることなく、有為な人材の育成に継続的に取り組むことが必要。
- ② **資格取得の奨励**：多くの資格取得に挑戦させ、ジュニアマイスター顕彰の受賞者が増加している。資格取得のための放課後や休業中の補習と盛んな部活動との両立を目指し、時間の有効活用に学校全体で取り組んでいる。
- ③ **規範意識の向上**：部活動については、全員加入を掲げ推進し、運動部加入率約80%と高い加入率を維持している。部活動を通じた社会性や規範意識の向上に取り組むとともに、生徒会や部活単位による一日一善運動や、規範意識週間を設けるなど、生徒の健全な心身の育成に向け、学校全体で組織的に取組を進め、成果を上げている。
- ④ **地域社会との連携**：工業高校の特色を生かした地域に必要とされる物品等の制作や、地域住民と共同した防災避難訓練を実施するなど、地域と連携した活動を推進し、生徒の社会貢献に対する意識を高めている。（ボランティア活動をさらに充実させることについて、今後、検討が必要。）

(2) 生徒に関する中・長期的目標

- ① 基礎的・基本的な知識・技能の習得を徹底しながら、確かな学力の定着を図り、生徒の個性・能力を最大限に引き出す。
- ② 時代を展望し、望ましい勤労観や職業観をもち、将来への見通しをもって行動できる人づくりを目指す。
- ③ 産業社会の変化に対応できる社会人としての、コミュニケーション力、課題発見力・解決力、創造力などの総合的な能力(プロセススキル)を身につけた人づくりを目指す。
- ④ 健康や体力の増進に努め、人間性を育み、心身ともに健康で逞しい（タフな）人づくりを目指す。

(3) 教職員、学校組織などの望ましいあり方

- ① 教職員の意識改革を図り、教育目標をよりよく達成する(具現化させる)ために、教職員一人ひとりが学校経営に主体的に参画する意識を持ち、学校の各分掌が自らの役割を担いながら、他の分掌と協働して学校運営に組織的に取り組む。（個人の達成感だけでなく、組織としての達成感を共有できる体制の構築）
- ② 自己評価や他者評価(生徒による授業評価を含む)を活用し、公開授業や校内外の研修を通して、教員一人ひとりの指導力の向上や教科全体での授業改善に努める。
- ③ 産業構造の変化や技術革新に対応できるよう、産業界の動向を常に把握するとともに、本校生徒に適した指導内容・教育課程・教育システムを模索し、地域に必要とされる「ものづくり教育」を目指す。
- ④ 工業技術の提供やボランティア活動を通して、地域への貢献を図り、信頼される開かれた学校づくりを推し進める。

3 今年度の重点目標

- (1) 生徒全員の進路実現のため、全教職員が、ICT活用やAL型授業の推進等を掲げた本校の学習指導方針(スクールポリシー)のもと、学力スタンダード等を活用して、個人として教科としての授業改善を実践するとともに、資格取得を奨励し、生徒の学力向上に努める。
- (2) 心身ともに健康で逞しい（タフな）人づくりを目指し、規範意識を高め、部活動や生徒会活動の活性化に努める。
- (3) 社会貢献や環境に対する意識を高めるため、工業学習成果の提供やボランティア活動等を積極的に行い、地域社会との連携を深める。

						石川県立羽咋作業高等学校	
重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
1 生徒全員の進路実現のため、全教職員がICT活用やAL型授業の推進を掲げた本校の学習指導方針(スクールポリシー)のもと、学力スタンダード等を活用して、個人として教科として授業改善を実施するとともに、資格取得を奨励し、学力向上に努める。	① 思考力・表現力・コミュニケーション力の育成を目指し、効果的なICT活用やAL型授業を取り入れた研究授業や公開授業に取り組む。	教務課 各教科	各教科の研究協議会を改善し、ICT機器活用等による公開授業を行い授業改善に取り組んでいるが、全員の複数回の取組にまで至っておらず、更なる意欲の高揚が望まれる。	【努力指標】 研究授業や公開授業、その協議会等で得られた授業改善の方策を学校全体で共有し、指導力の向上を図り授業の質を高めている。	授業改善に向けた研究授業や公開授業を、年間2回以上取り組んだ教師の割合が A 80%以上 B 65%以上 C 50%以上 D 50%未満	C・Dの場合は、取組を再検討	7月・12月にアンケート調査
	② 学力向上を図るために教科の宿題やレポートの出題方法と回数を工夫するとともに、授業と資格取得の補習指導を通して家庭での学習習慣を身に付けさせる。	教務課 各教科	定期考査期間以外での家庭学習が少ない状況が続いており、補習により成果は出ているが、補習後に家庭学習する生徒が増えていない。家庭での自発的・継続的な学習にまで繋げていく必要がある。	【満足度指標】 授業時間外の学習と家庭学習に十分取り組むことができている。	宿題・レポート・資格取得など、家庭での学習活動について A 十分取り組むことができた B おおむね取り組むことができた C あまり取り組むことができなかった D 全く取り組むことができなかった	A・B合わせて80%以下の場合には取組を再検討	生徒対象に 7月・12月にアンケート調査
	③ 全教員が愛読書を薦めたり、昼食時の出前図書などの読書運動を全校的にを行い、生徒に読書の習慣を身に付けさせる。	図書課 各教科	2学期末の貸し出し図書数は「先生方がお勧めのこの1冊」運動の協力等により、生徒一人当たり平均貸し出し冊数は増加傾向にある。	【成果指標】 生徒一人当たり平均貸し出し図書数が4冊を目標に、貸し出し図書数が増加している。	2学期末での貸し出し図書数が A 1,300冊以上 B 1,100冊以上 C 900冊以上 D 900冊未満	C・Dの場合は、取組を再検討	7月・12月に調査
	④ 資格・検定取得の説明機会を増やして受験を奨励するとともに、土曜授業や課外補習を充実させ合格者数を増加させる。	工業科 進路指導課 教務課 学年	資格・検定取得に対する生徒の意識が高まっているが、年ごとに受検者数の増減が見られ、学科の枠を超えて種々の資格・検定に挑戦する取組が必要になっている。	【成果指標】 資格・検定試験合格者数が増加している。	1月末での資格・検定試験延べ合格者数が学校全体で A 800人以上 B 700人以上 C 550人以上 D 550人未満	C・Dの場合は、問題点を分析し具体策を検討	1月末の資格・検定試験合格者数を検証
	⑤ ジュニアマイスターのゴールドおよびゴールド特別表彰、シルバー、校内顕彰ブロンズの取得を目指し、学校全体で多くの資格・検定への挑戦意識を高めて認定者数を増加させる。	工業科 関連教科	昨年度のシルバー・ゴールドの認定者は102人、ゴールド特別表彰者は13人となった。昨年度すでにジュニアマイスターの認定を取得した3年生も多数いるが、更に上位認定を目指し難易度の高い資格・検定への受験奨励と補習の充実が求められている。	【成果指標】 社会が専門高校生に求める専門的な資格や知識の指標となるジュニアマイスター顕彰認定者数が増加している。	ジュニアマイスターゴールドおよびシルバーの認定者数が学校全体で A 80人以上 B 65人以上 C 50人以上 D 50人未満	C・Dの場合は、取組を再検討	7月・1月の申請者数を検証
	⑥ インターンシップや地元企業説明会等により適切な進路選択を促進させるとともに、進路説明会やLHなどで進路に向けた情報提供を行なう。	進路指導課 工業科 学年	地域企業への理解を深め、仕事の意義を理解させるとともに、進路情報を的確に知らせ、意識を高める必要がある。	【満足度指標】 適切な情報提供により進路意識の高揚に繋がった。	各種進路指導行事・LHなどによる説明や進路情報により、意識が A たいへん高まった B ある程度高まった C あまり変わらない D 全く変わらない	A・B合わせて、80%未満の場合には、取組を再検討	生徒対象に 7月・12月にアンケート調査
	⑦ 進路希望の達成のために指導の充実を図る。 基礎学力の定着を図ると共に、授業でコミュニケーション力を身に付けた工夫を行う。 外部講師による講演や面接指導、全教員による個別面談・指導を充実させる。	進路指導課 教務課 工業科 学年	近年は、求人件数が上向き傾向にあるが、企業側が人物を選んで採用してきている。基礎学力と共にコミュニケーション力を身に付けた人材を強く求められてきている。また、大学進学希望者は、面接がある推薦入試での受験をほぼ希望している。	【満足度指標】 基礎学力やコミュニケーション力が付いてきた。 【成果指標】 早い段階での就職内定を勝ち取る。	朝学習や日頃の学習、面接指導などにより、基礎学力やコミュニケーション力が A たいへんついた B ある程度ついた C あまりつかなかった D 全くつかなかった 年内での就職の内定率が A 100% B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満	A・B合わせて、80%未満の場合には、取組を再検討 C・Dの場合は、取組を再検討	3年生を対象に 7月・12月にアンケート調査 3年生を対象に 12月末に調査

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
2 心身ともに健康で逞しい(タフな)人づくりを目指し、規範意識を高め、生徒会活動や部活動の活性化に勤める。	① 本校の運動部は、県高校総体・新人大会で団体・個人とも上位を目指し、高体連表彰取賞賞を獲得する。	生徒会課 運動部顧問	高体連総合成績は、敢闘賞部門で2位であった。県総体ではヨットが男女優勝、弓道男子個人が準優勝。新人大会ではヨットが男女優勝、ソフトテニス男子が準優勝、柔道・弓道男子が3位であった。	【成果指標】 高体連の得点基準にしたがい、総合得点75点以上獲得する。	高体連基準総合得点が A 75点以上 B 60点以上 C 50点以上 D 50点未満	C・Dの場合は、取組を再検討	県総体、県新人大会の成績結果を検証
	② 文化部で部活動への重複加入を奨励し、各部の取組や活動に、生徒が積極的に取り組み、よい成果を収める。	生徒会課 文化部顧問	羽工祭、高文連関連行事、工業部門の各種大会、校内外での発表・公開・応募の機会を増やすことにより活動の成果に満足している。	【満足度指標】 生徒は文化部活動をより活発にしようと行動し、その取組や成果について満足している。	文化部の活動や成果に満足しているか A たいへん満足している B おおむね満足している C あまり満足していない D まったく満足していない	A・B合わせて80%以下の場合には再検討	生徒対象に 7月・12月にアンケート調査
	③ 生徒会を中心にして行事への参画意識を高め、自主的に参加する行事にする。	生徒会課 部顧問 学年	生徒会行事で生徒がより積極的に参加する工夫をした結果、昨年度は96%の生徒が「満足した。」と回答し、年間を通して意識が高かったことが伺われる。	【満足度指標】 生徒の意見を取り入れ、満足 of いく行事になっている。	生徒会行事に満足しているか A たいへん満足している B おおむね満足している C あまり満足していない D まったく満足していない	A・B合わせて80%以下の場合には再検討	生徒対象に 7月・12月にアンケート調査
	④ 倫理観・道徳意識に関する全校一斉読み聞かせや発表会を行い、規範意識の向上を目指す。	生徒指導課 学年	学校の全ての教育活動で規範意識を高める活動・指導がなされているが、未だルールを守れなかったり、公共心に乏しかったり、自己中心的な生徒もいる。	【満足度指標】 規範意識が向上し、ルールやマナーを守れるようになり、モラルが身についている。	本校の教育活動や朝の読み聞かせ・発表会により、規範意識が向上したか A 十分向上した B 少し向上した C あまり向上していない D 全く向上していない	A・B合わせて85%以下の場合には再検討	生徒対象に 7月・12月にアンケート調査
	⑤ 保健だよりや集会、SH等を利用して、生徒の心身の健康管理についての意識の高揚をはかる。	保健指導課 教育相談課 学年	運動部加入率が高いが、体調不良等による保健室の利用者が毎日数名いる。	【満足度指標】 自分自身の心と体の健康管理を日頃から意識して生活できている。	自分自身の心と体の健康管理について、日頃から意識して生活しているか A 常に意識している B ある程度意識している C あまり意識していない D まったく意識していない	A・B合わせて74%以下の場合には取組を検討	生徒対象に 7月・12月にアンケート調査
3 社会貢献や環境に対する意識を高めるため、工業学習成果の提供や奉仕活動等を積極的に行い、地域社会との連携を深める。	① 社会に貢献する大切さや必要性を認識するために、地域ボランティア活動や校外での一日一善運動を推奨する。	生徒会課 学年	海岸清掃や部単位で取り組む地域ボランティア、校内外の一善運動に、全校生徒の80%が参加・実践している。	【満足度指標】 社会貢献活動の大切さを理解し、学年や部活動、生徒個々で地域ボランティア活動や一日一善を実践している。	地域ボランティア活動や一日一善運動を通して社会貢献の大切さを理解しているか。 A 十分理解している B ある程度理解している C あまり理解していない D 全く理解していない	A・B合わせて75%以下の場合には再検討	生徒対象に 7月・12月にアンケート調査
	② 環境保全のこれまでの取組を向上させ、ゴミ分別や環境保全が正しく行われているかを評価し、美化意識の向上を目指す。	総務課 保健指導課 学年	環境保全活動は年々着実に実行されているが、その取組に個人差が出てきている。	【成果指標】 各学期1週間程度各教室の清掃やゴミの分別を中心に1日20点満点で評価し、平均18点以上を獲得する。 【満足度指標】 学校全体で環境保全(ゴミの分別・節水・節電等)に取り組んでいる。	平均18点以上の教室が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 環境保全(ゴミの分別・節水・節電等)に取り組んでいる割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C・Dの場合は、取組を再検討	ISO委員により 7月、10月、1月に各教室を1週間調査し1日20点満点で評価
						C・Dの場合は、取組を再検討	生徒対象に 7月・12月にアンケート調査